



工芸をテーマに
複合施設として再生

INOJIN 工芸倶楽部

(旧井甚織物工場)

昭和44年に建てられたノコギリ屋根工場が再生され、4月から「INOJIN工芸倶楽部」としてオープンする。主宰するのは倶楽部代表の井上弘子さん、陶芸を中心に、染色・革工芸・日本刺繍・アクセサリーの工芸教室と企画展を行うギャラリー、それに付随する喫茶室、「和布 井甚」と名付けた呉服の店、これら四つのジャンルを擁した、工芸をテーマにした複合施設となる。

旧井甚織物は明治34年の創業、初代の井上甚太郎氏が黒縹子織物を織り出したのが始まり、その後、名古屋帯や袋帯を生産し、戦前は100人ほどの従業員を抱え活況を呈したという。現在のノコギリ屋根工場は昭和44年の建設で、桐生市内に残る工場では新しい部類である。昭和60年に操業を止め、倉庫などに使われていたが、今春から工芸工房として甦ることになった。

幼い時から「ものづくり」が好きで、陶芸、染織に長く携わってきた井上さん、「工芸は生活の中で使ってこそ生きるもの」という持論を実践できる場としたいという。80年を超える井甚織物の歴史、「その記憶を伝える展示もしていきたい」。先人の営みを大切に思い、自らの手で再生に取り組む井上さんの姿勢が快い。3月26日（土）27日（日）午後に教室見学会を実施する。



- 代表者／井上弘子氏
- 住所／桐生市境野町 5-337-2
- 電話／0277-46-1251